

## 鹿児島・川内原発再稼働阻止全国集会参加報告

2014年9月26日

福間幸夫

6月12日～14日、川内原発稼働阻止集会に参加してきました。少し前のことなので記憶が定かでなくなっていますが、写真に添って箇条書き的・散文的に思い出・感想を書きだしてみます。

6月12日(晴れ)

左は鹿児島空港から鹿児島市内へ向かうバスから桜島を望んだ写真です。6月12日は梅雨の半ばなのにたまたま晴れて、福間にとっては21年振りの桜島



ばなのにとまたま晴れて、福間にとっては21年振りの桜島でした。桜島の噴煙は丁度雲で見えません。

左は、県庁前集会でのプラ技の小川さん。小川さんのFoot-Workの良さ、縦横無尽のご活躍に脱



帽です。

その下は、県庁前集会で話をする木田節子さん。福島から来られたバカイト歴の素晴らしい女性です。福間はこの木田さんの話しには、いつも胸を打たれます。福島の実体験から出る言葉だからです。

県庁前の集会でマイクを握っておられるのは、地元の脱原発の代表者の向原祥隆さんです。先の知事選で約3分に1の票を集めました。



13日(曇りのち晴れ)

この日(13日)は、10時から鹿児島県議会が開かれるので、全



国各地からの脱原発の代表者が10名ばかり傍聴に入りました。左の写真はその傍聴時前の静かな光景です。



川内原発ゲート前集会後、鹿児島市内で全国脱原発活動家集会が開かれました。福間としては、せつかく全国の活動家が集まったのだから、テーマ(例えば、「今後の全国の脱原発運動をどう連携して行くか」)を絞って議論すればよかったのでは、との感想を持ちました。福間は体調不良で、この会議の後の美味しいご馳走と飲み会(交流会)に参加出来なくて残念でした(会費は払っておいたので余計に残念)。



左はホテルに帰る途中で見た鹿児島市内での表示です。ここは「桜島の街」だ、という事を改めて実感しました。

左はホテルに帰る途中で見た鹿児島市内での表示です。ここは「桜島の街」だ、という事を改めて実感しました。

14日(雨のち晴)



写真[左]は川内川です。この河口左岸に川内原発があります。川内川は想像以上に大きく、また、深さも深いと聞き、驚きました。伊方原発や島根原発やその他若狭湾周辺の原発は全て狭い辺境の地にありますが、川内原発は以外と平野に近いところにあるな、と感じました。

川内原発は以外と平野に近いところにあるな、と感じました。

右の写真は川内原発ゲート前の道路と池です。地元活動家の話によると、この池は、地震での陥没池だとのことです。この向こうに立派な展示館が見えます(この展示館、この日はデモを警戒して臨時休館でした)。



左は川内原発ゲート前の集会の様です。有刺鉄線の塀の向こうにカラフルな原子炉が見えます。この塗料代だけでも相当なものだと思います。

下は、川内原発ゲート前で要請文を読み上げ、応対に出た総務部長(?)に要請文を手渡す小川さん

です。小川さんの後ろに見えるのは、鎌田慧さんです。帽子を着用している人です。



右は救助犬を連れた救助隊員の方の写真です。胸には日の丸が縫い込まれていたのですが、警察や自衛隊関連の人かな?と思ったら、民間のボランティアの人でした。福島にもボランティア(救助)に行かれた、と話をしていました。救助犬は 8 歳とかでもうかなりの老犬だとのこと。頑張っていますね。



集会は 15 日までだったのですが、私は 14 日の夕方便(JetStar 鹿児島空港 14:45 発)で帰路につきました。

私の出身地・島根原発のある所から出た代議士・細田博之(自民党幹事長代理)氏は自民党の原発推進会議の議長をしています。先のエネルギー基本計画に原発を「ベースロード電源」と入れさせた元通産省幹部の一人です。こうした人々をどうしたら小泉・細川・菅元首相らのように「脱原発」に転向させることができるか、皆さんとともに考えていきたいと思っています。

もう一つ、今回の集会に参加して印象に残ったのは、参加者が高齢で、傍で見ていても大変だったことです。関東からは約 120 名の方が、14 時成田空港発の LCC JetStar で鹿児島空港に向かったのですが、我々参加者の多くが高齢者のためか、各集合場所でもまさに「烏合の衆」の体、これでは原発事故でいざ避難となった場合、とても安全な避難などできっこないと、強く感じました。小川さん等、今回の企画に奔走された幹事さんは本当に奮闘されていましたが、私は歳には勝てない、と実感した次第です。

完

(文章構成編集責任 長谷川)